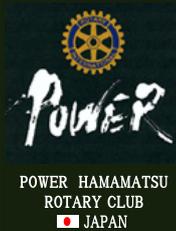


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

小さな歯車 地球を回す

RI 会長 ゴードン R. マッキナリー / 第 2620 地区ガバナー 中村皇積 / 会長 伊藤勝人 / 幹事 土屋公良
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第945回例会8月1日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラアクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：谷川修一 豊田充孝 ■点鐘：伊藤勝人 ■週報：町田拓郎
- ロータリーソング：「希望のエナジー」
- ゲスト：(一社)みらいTALK 理事 伊藤智恵子様
Jリーグ ジュビロ磐田 キャプテン 山田大記様
米山記念奨学生 ヤオ ファンボさん

出席報告/スマイル報告

会員数 67名 (内出席免除会員 1名)
出席数 52名 出席率 78.89%

スマイル提出者氏名掲載

会長挨拶

第 945 回例会 会長挨拶 伊藤勝人

おはようございます。先週の日曜日は「土用の丑の日」でしたが、皆さんは鰻を食べに行きましたか？土用の丑の日に鰻を食べる風習は、江戸時代からだそうですが、皆さんもよく知っているように、鰻の料理法には「関東風」と「関西風」があるようです。

「関東風」は背開き。将軍様のお膝元でもある江戸の町では、腹から開くことは切腹を意味して嫌ったそうです。対して「関西風」は腹開き。商人の町ですから、「腹を割って話をしましょう」という意味だそうです。また、昔は鰻を熱いご飯の間に挟んで蒸したので、「間蒸し」と言ったようです。私は、鰻も蛇のママシも滋養強壯の元なので、蛇のママシにかけて言っているのだ、と勘違いをしていました。

そんな鰻ですが、実は私の地元、福田町の太田川では、私の子供の頃にはウナギの稚魚が捕れました。地元ではその稚魚のことを「浜っ子」と言いますが、現在は全国的にも漁獲量が激減していて、太さ2ミリ、長さ8センチほどの「浜っ子」が、今では1匹1,000円の高値だそうです。本当に驚きます。

私は高校に入る時の時計を買うために、中学3年の12月から2月まで、夜の7時ごろになると太田川の河口へ、カンテラと大きな網を持って「浜っ子」を取りに行っていました。

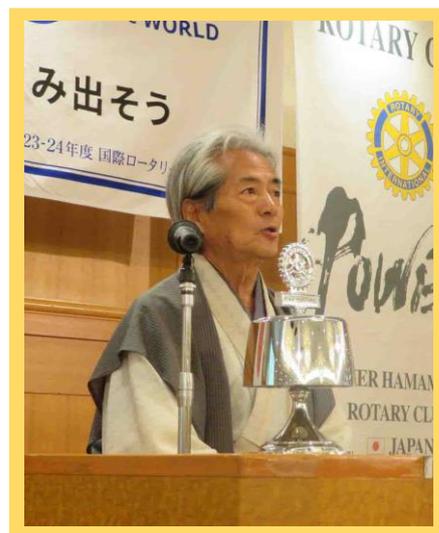
昔のカンテラの火をつけるには、カンテラの中に、カーバイトという石のようなものを入れ、カンテラの上から少しずつ水を落とすと大変臭いガスが発生するので、そのガスに火をつけます。そのガスの火は、真冬に吹く強い北風にも負けず、消えそうになってもまた燃えるという性質がありました。

しかし、真冬の太田川の河口は本当に寒い！5枚くらい重ね着をして、重ね着の間に新聞紙を入れて風を通さないようにして、顔には頬かむりまでしても、体はガタガタ震えるほどでした。そして、真っ暗で寂しいところでジッと目を凝らしていると、あの小さな「浜っ子」が、体をくねらせながら、灯りの中にスーッと入ってくるのです。

「来たっ！」と思って慌てて網ですくうと、入っていないんですね。

そんなことを繰り返しながら、それでもお陰様で念願の「SEIKO」の腕時計を手に入れることができたのは「浜っ子」のおかげです。皆さんもこの夏は「鰻昇りに上がる」価格のうなぎを食べて、この暑すぎる夏をうなぎパワーで乗り切っていただきたいと思います。

本日もよろしくお願いたします。



幹事報告

- ① ロータリーの友 8月号をレターボックスに入れてあります。ご確認ください。
- ② 7月29日(土)に静岡グランシップで開催された会員増強セミナーに参加してきました。会員増強は2620地区74ロータリークラブの共通の問題であり、現在2800数十名の会員を何とか3000名にまで戻したいとのこと。そのため問題点の洗い出しと対策をグループ毎に話し合いました。参加した伊藤会長、小林委員長お疲れ様でした。国際ロータリー会員増強委員の安間みち子会員の講演も有意義なものでした。機会があればぜひ我がクラブでもお話して欲しいと思いました。ここにご報告いたします。
- ③ 7月30日(日)に米山記念部会のズーム会議に参加した諸星さんと伊藤会長、お疲れ様でした。内容については後日またお話していただけるとありがたいです。



■ゴルフ同好会 宇佐美英尚 第一回青空例会のご案内

■米山記念奨学金 授与 ヤオ・ファンボ

パワー浜松ロータリークラブの皆さん、おはようございます。
私は静大の米山ロータリーの奨学生ヤオ・ファンボです。パワー浜松ロータリークラブの活動に参加して4ヶ月が経ちました。クラブ活動から多くのことを学びました。先月、伊藤会長から浴衣をいただき、安倍川と袋井の花火大会に着て参加し、日本文化を体験してきました。伊藤会長からのプレゼント、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。



議事

■一般社団法人みらいTALK 伊藤智恵子様 卓話

「子どもの貧困の実態と求められる支援」

伊藤様の経歴は浜北市の保健師として5年間勤務し、その後埼玉県朝霞市で3年間勤務していました。

平成4年～浜松市発達医療総合福祉センターにて相談業務に従事して現在に至っています。

みらいTALKは、2009年5月より「こどものより良い未来創る会」として活動を開始し、勉強会や講演会を開催しています。2013年からは「障がいを持つ子どもと家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ」などを開催し、2015年からは「生活困窮家庭支援プロジェクト」を開始しました。その翌年の2016年に法人化して、一般社団法人みらいTALKとなりました。

最初のきっかけは、不登校の中学3年生の男の子でした。今後の進路は進学しないということでした。家庭訪問をしたところ母子家庭で母親は3つの仕事を掛け持ちしている不規則のアルバイトをしていました。4人兄弟で、上の二人が下の二人の小学生の面倒をみているという状況でした。所持金も500円しかないという環境でした。不登校の男の子に「勉強をしたいか?」と聞くと「うん」と言ったので家庭教師のボランティアを行ってくれた静大生がおしえてくれました。不登校の男の子はその後、高校へ進学し生徒会長も務めるほどになりました。いまでは卒業をして働いています。

日本の子供の貧困の特徴は「見えない貧困」だということです。浜松市ですと10～11人に1人が生活困窮家庭で育っているというデータがあります。電気やガスが止まるという家庭ですと家庭内暴力や虐待に繋がってしまいます。そういった境遇の子どもたちでも「学習」する場を求めています。

■Jリーグ ジュビロ磐田 キャプテン 山田大紀様

個人的に仲間と共に、みらいTALKと一緒に支援活動を行なっております。

サポートしてくれる会員を増やしていきたいので皆様のご協力をお願いします。

